

なんYA!かんYA!

第5回ビブリオバトル in Kokaを開催しました!

今回は中学生も参戦し、本好きたちによる熾烈な戦いが繰り広げられた結果、チャンプ本の栄冠は『罪人よやすらかに眠れ』と『挫折を経て猫は丸くなった。』に決まりました。なんと紹介者はどちらも10代! そんな、ティーンバトラーに戦いを終えての心境を聞いてみました。

図書館(以下図): 出場してみてどうでしたか?

バトラー(以下バ): 他の人がアツク語ってらっしゃるのを聞いて、読んでみたいとおもいました。

図: いつもはどんな本を手に取りますか?

バ: 外国の著者のファンタジーやミステリーをよく読みます。あと映画の原作は、映画にでてこないことも書いてあっておもしろいです。今回紹介した本は、誕生日にミステリーの棚で見つけ、本の帯をみて読んでみたくなりました。

図: チャンプ本に選ばれましたが、どうですか。

バ: とてもビックリしています。

図: おめでとうございます。またの挑戦をお待ちしています!

トショブラ♥ ~メールマガジンについて~

図書館で開催する行事や新しく入った本などの情報を、いち早くお届けする<甲賀市図書館メールマガジン>の配信がスタートしました!!

定期配信は、毎月1日と15日の月2回。その他、特別イベントなどのときにも配信します。インターネットサービスの利用登録をしてくれている人には、登録されたキーワードに関する新着資料が入った時にお知らせすることもできます。その場ですぐ予約もできますよ!

メールマガジン配信の利用登録は、メールアドレスがあれば誰でもできます。インターネットサービスの利用登録がまだの人は、まず図書館カウンターで申込をしてください。メルマガ登録して、図書館でのいろいろなイベントやお気に入りの作家さんの最新刊などチェックしてみてね。

発行: 甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書情報館 : 88-7246 甲南図書交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <http://lib.city.koka.lg.jp/>



Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信

ホンマニ!

vol.6

2017.Winter

Koka City Library

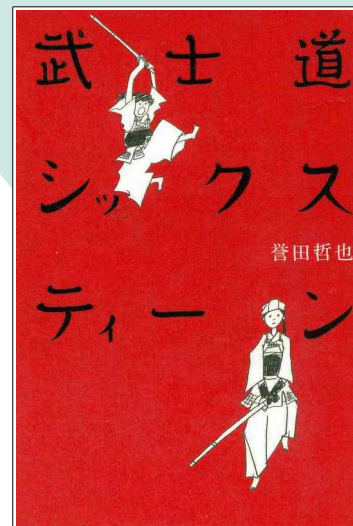
ヤングアダルト(Young Adult)とは、13歳から19歳の世代の人たちに対して使われている言葉で、「若いおとな」という意味です。甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ!』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

この冬おすすめ この1冊

さあ、始めよう。わたしたちの戦いを。
これが新しい、武士道の時代の幕開け—。

『武士道 シックスティーン』

菅田 哲也/著 文藝春秋



中学最後の横浜市民大会の剣道の試合、早苗が香織に勝ってしまうところから物語が始まる。早苗の性格は温厚でマイペース。日本舞踊で習得した個性的な足さばきが特徴。剣道を純粋に楽しむことを目的とし、勝敗には固執しない。かたや香織は、宮本武蔵を心の師とする剣道エリート。剣道に朝から晩まで打ち込み、早苗に敗れた悔しさが忘れられない。因縁の2人が同じ高校の部活で再会し切磋琢磨しながら遠のいたり、近づいたり。章ごとに2人の気持ちが語られ、彼女たちの考えることがよくわかる。練習シーンや試合のシーンは氣勢を上げながら書かれているので、臨場感たっぷり。青春スポ根好きはきっとハマルかも。まだまだ続くこれからの展開が気になる人は続編も読んでみて。

さと

●聡くてもむずかしくはない哲学

『天才のら犬、教授といっしょに哲学する。 人間ってなに？』

セシル・ロブラン、ジャン・ロブラン／著 岩崎書店

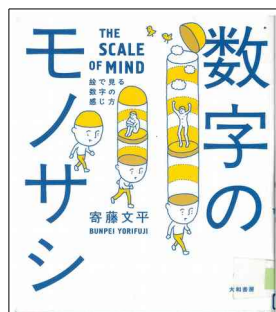


ある哲学者が「人間と動物のちがいについて」という本を書くことになっていた。筆が進まないでいたところ、一匹ののら犬が家に入ってきて、人間の言葉で「動物が人間よりずっとすぐれている事をおしえてやる」と議論をふっかけてきた。古代から近代までの哲学者の言葉を引用しながら人間と動物の違いを議論して、「人間ってなに」という疑問に対して考えを深めていく。難しいというイメージから敬遠されがちな哲学をわかりやすく書いている。

●絵で見る数字の感じ方

『数字のモノサシ』

寄藤 文平／著 大和書房



1000円のサンマを20円値引きされるとうれしいのに、100万円の自動車を20円値引きされると腹が立つのはなぜ？日常生活に常にかかわってくる数字。それに関連して心も変化する。千・万・億と数字が大きくなるにつれてイメージしにくくなっていく。そんな数字を身近にある物事に例えるなどして、数字と生活とココロの微妙で密接な関係を独特な絵で分かりやすく面白く解説している。

●動物の問題は、人の問題、社会の問題。

『世界のアニマルシェルターは、 犬や猫を生かす場所だった。』

本庄 萌／著 ダイアモンド社



日本では平成27年度に約8万匹の犬猫が殺処分されています。著者は高校時代にイギリスのアニマルシェルター（保健所）で職場体験をしたことから日本との違いに衝撃を受け、動物法を学び、8カ国のアニマルシェルターを訪問しました。例えばドイツのシェルターは、広く明るく殺処分0。動物をケアし、新たな飼い主に譲る場となっています。それを可能にした方法や人々の意識についてなど、各国での課題と取り組みについてまとめられています。

●普通って、1年前に考えていたよりも、きっと価値がある。

『願いながら、祈りながら』

乾 ルカ／著 徳間書店



生田羽中学分校は1年生男子3人・女子1人、3年女子1人、先生3人。気の合う人もいれば、気の合わない人、よくわからない人もいる。でもそれぞれが影響を受けずにはいられない。本校生徒との人間関係に悩んだり、自分は特別だと思いたかったり、気遣いからすぐばれる嘘をつき続けたり―。気づくこと、考えさせられることで希望が見えてくる。それぞれが1年間で印象に残った出来事を語る短編集。

●14歳のあの年。真夜中の屋上、わたしだけが会った魔女

『宇宙でいちばんあかるい屋根』

野中 ともそ／著 ポプラ社

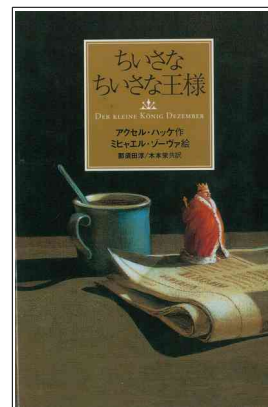


私、つばめ、14歳。自分としてはいろいろと悩みのタネがあるのだけれど、まわりから見れば平凡な毎日…。本当に「ちゅうとはんぱな年齢」だ。そんなある日の真夜中に、ビルの屋上でド派手で最高に口の悪いおばあさんと遭遇。なんだか不思議で魔女みたいな「星ばあ」と出会ったその日から、私のもやもやした時間が少しずつ変わり始める。せつなくて、くるしくて、でも読み終わったあとにフッと笑顔になる物語。

●ある日、ふらりと僕の部屋にあらわれた気まぐれな王様

『ちいさなちいさな王様』

アクセル・ハッケ／著 講談社



僕の人差し指ほどの大きさの王様は、はじめが一番大きくて、何もかも知っていて何でも出来るところから、少しずつ忘れていくと同時にどんどん小さくなり、最後には見つけられないほど小さくなり、消えてしまうというのです。でも王様は小さくなればなるほど、ますます自由に想像の翼をはばたかせることができるのだからと小さくなるのが楽しみだと言います。僕と王様の何気ない会話が綴られています、どこか哲学的でもある一冊です。